青森田中学園報

こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学
青森中央短期大学
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
認定こども園
青森中央短期大学附属第一幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第二幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第三幼稚園
幼保連携型認定こども園
中央文化保育園
幼保連携型認定こども園
浦町保育園

特集：青森田中学園×SDGs

vol.102

Kobushi no Hana
Jun, 2020

目　次

特集：青森田中学園×SDGs ―― 2

青森中央学院大学 ―― 4
・青森中央学院大学新学長のご紹介
・ボウリング部の活躍
・青森市産官学連携プラットフォーム事業
・HAKODATE アカデミックリンク参加報告
・学生発「選ばれる青森」への挑戦参加報告
・高大連携事業
・特別公開講座
・学生団体ディベラボの活動
・自主防災組織 DEST の活動
・ローマ教皇よりメダル親授
・国際交流センターより
・今できることを最大限に
・新型コロナウイルスの影響をうけて
・飛翔式について
・健康の大切さ
・寮でのコロナ対策
・認知症ほっと三行レター表彰式

青森中央短期大学 ―― 10
・青森中央短期大学の開学50周年を記念して
・福祉セミナー
「介護ケアから生まれる『笑い』と『生きがい』」
・幼児保育学科のミュージカル公演
・食育セミナー開催
・あおもり食育推進大会 2020
・地域の食育活動「みんなの食堂 in CHUTAN 2019」から
・まちなかキャンパス講座
・社会人のための進学説明会
・フードスペシャリスト資格認定試験合格
・AOMORI おうちごはん BOOK
・ピオトープサークル
・先生の自分史
・JAF ドレミぐるーぷ
・研究室を訪ねて

附属第一・第二・第三幼稚園
中央文化保育園　浦町保育園 ―― 14
・行事アルバム
・先生達活躍しています
・新園舎完成しました
・読み聞かせたい一冊の絵本

青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校 ―― 16
・特別公開授業「meets the Fashion」
・公開講座『長期投資の醍醐味～
「ありがとう」というリターン～』
・あおもり藍の染色実習
・卒業発表を終えて
・経理発信情報 Vol.23 パソコン教室
・ファッション通信 Vol.21
・おススメ図書 Vol.21
・卒業生ピックアップ No.32

新教職員紹介 ―― 18

学園共通 ―― 20
・青森中央短期大学将来ビジョンのロゴマークを公募します
・２019年度 COC+ シンポジウム開催
・マスク･消毒用アルコール寄贈ありがとうございます
・新型コロナウイルス感染症防止対策について
・新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済支援について

特集 青森田中学園×SDGs

SDGｓ「持続可能な開発目標」について

SDGｓ目標達成へに向けて青森田中学園の挑戦

SDGs（エス ディー ジーズ：Sustainable Development Goals）は2015年国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」です。地球上の誰一人取り残さないことを目指し､「貧困をなくそう」｢飢餓をゼロに」など2030年までに達成すべき17のゴール（目標）と169のターゲット（具体的な目標）を定め、目標達成のための行動を求めるものです。「貧困」や「飢餓」と聞くと途上国の問題だと思われるかもしれませんが､「働きがいも経済成長も」｢住み続けられるまちづくりを」など私たちにも共通する問題が含まれています。

学校法人青森田中学園は国際的な視野を持って地域産業の振興や地域の保健医療福祉の充実に貢献できる人材育成をし、地域発展に寄与することを使命として掲げています。その使命のもとに実践された本学園のこれまでの地域課題解決のための取組みや教育は、SDGs目標達成につながるものでもあると考えています。2030年へ向けた挑戦は授業や学生の活動の中ですでに始まっています。

地域の健康課題への取り組み

フィールド実習（保健師教育課程）

看護学部・保健師教育課程では、地域の方々から学ぶことを大切に考え、大学近隣の妙見町内会のご協力を得て、3年次からフィールド実習を行っています。学生は地域の生活や健康課題を知るために、何度も地域に足を運び、そこに暮らす方々の話に耳を傾けながら、「健康とは？」「安心して暮らせる地域とは？」といった課題に向き合います。

また、青森市南地域包括支援センターのご指導のもと、学生は地域で開催される認知症カフェで健康教育や健康チェックを実施したり、実習の最後には地域の方を本学にお招きして「学びの報告会」を開催し、交流を深めています。

これからも地域を学びの場として大切にしつつ、多くの学びを地域に還元していきたいです。

（看護学部　菊池 美智子）

リユース食器でプラスチックゴミ削減！

PLA ZERO PROJECT by MARINE LAB

昨年の学園祭において、海洋資源の持続的な利用に取り組む学生団体「MARINE LAB（マリン・ラボ）」が中心となり、プラスチックゴミの削減を目指した活動「PLA ZERO PROJECT by MARINE LAB」を行いました。

デポジット（預り金）制度を採用し、各模擬店で飲食物を提供する際にプラスチック容器ではなくリユース食器を使用していただきました。

学生が主催する初の試みで、模擬店ごとにリユース食器の使用がばらついていたり、リユース食器を回収しきれなかったりとうまくいかなかった部分も多々ありました。しかし、有志で協力してくれた学生や模擬店の出店者をはじめ、多くの方々からご協力いただき、約3,300食もの飲食がリユース食器で提供されこの活動を成功させることができました。

今後はこの活動を一回きりで終わらせることなく、継続させることでよりよいものにしていきたいと思います。

「美味しい」という幸せを分かち合おう

CHU-TAN食育プロジェクト『おむすび』

「美味しい」という言葉を発するとき、人は心が満たされているのではないでしょうか。

美味しさは人の身体と心をつくるものであり、誰もが手に入れ、人と分かち合える幸せであるべきだと考えています。

CHU-TAN食育プロジェクト『おむすび』は食物栄養学科と幼児保育学科の学生がそれぞれの専門性を活かし協働で活動を行っています。この活動は2018年の結成当初から「人・自然・食・地域」の中で関わり合い、学生自らが結びつく種となる食育活動を目指しています。これまで、オリジナル食育ソング＆ダンスや制作した食育教材などを通して、学校や保育施設等で「楽しい食育」を実践してきました。

2020年青森中央短期大学開学50周年という記念すべき年には、日本の食文化に注目した新しい食育ソング「大豆の唄～表現遊びうた～」が誕生します。

「♫ おいしいしあわせ　everybody happy day! 」という最後の歌詞にはCHU-TAN食育プロジェクト 『おむすび』の願いが込められています。

CHU-TAN食育プロジェクト
「おむすび」

O：驚き、機会(OCCASION)
M：結ぶ、伝える(MESSAGE)
S：自然、種(SEED)
B：日々、身体(BODY)

青森中央学院大学

青森中央学院大学新学長のご紹介

2012年４月より青森中央学院大学学長を務めてこられた花田勝美先生の任期満了にともない、今年３月31日に弘前大学学長を任期満了で退任された佐藤敬先生が、４月１日より本学の新学長に就任しました。また、ご勇退された花田先生より退任のごあいさつをいただきましたので紹介します。８年間大変ありがとうございました。

新学長ご紹介

氏　　名：**佐藤　敬**
（さとう けい）
職　　位：学長・教授
出 身 地：北海道
専門領域：脳血管障害、神経科学、血管生物学
略　　歴：
弘前大学医学部卒業、同大学院医学研究科修了（医学博士）
米国ユタ大学留学
弘前大学医学部教授（脳神経疾患研究施設）
弘前大学学長
青森中央学院大学学長（2020年4月～）
担当科目：生命の科学
ひとこと：令和２年４月１日から学長・看護学部教授を拝命しました。前任の弘前大学では、学生、教員、学長として51年間在籍しましたが、微力ながら、地域の高等教育において今少し働かせていただくことになりました。

本学は学生教育を最も重視している大学です。その成果として、高い就職率を誇っており、県内の自治体や有力企業等はもとより、全国で活躍する人材を輩出しています。学生教育の重視は大学として当然ですが、今後もその姿勢を大切にしていきたいと思います。

退任のごあいさつ　花田 勝美先生より

令和２年３月末をもって、任期満了を迎えることとなりました。私は平成24年の豪雪に見舞われた春、青森中央学院大学の学長職を拝命し着任致しました。以降８年の長きに渡りつつがなく職責を果してこられましたのは法人の厚い包容力に加え、両学部の教職員の皆様の献身的なご支援のおかげであったと感謝しております。この間、本学には経営法学部に加えて看護学部が設置され、さらに別科助産師専攻課程が加わり充実した教育体制ができあがりました。しかも、両学部の長所が互いに相乗効果をもたらし、教育・研究力、国際力、就職力の活性化に繋がり、今や全国的にも選ばれる私立大学のひとつに成長しました。在任期間中には、青森田中学園の創立70周年および本学の開学20周年記念行事が執り行われ、改めて本学の歴史の重みを体験することができました。多くの思い出は私の宝物になりました。

２月27日の理事会において、後任には弘前大学の学長職を務められてきた、佐藤　敬先生にご就任いただくことが決定されました。願ってもない大物の先生にお引き受けいただきましたことは私にとってこの上ない喜びであります。佐藤学長先生の下、本学の益々の発展を祈念して退任のごあいさつといたします。

ボウリング部の活躍

実績が高く評価されスポーツ各賞を受賞

「文部科学大臣杯第57回全日本大学ボウリング選手権大会」（2019年11月開催）で、女子２チームが優勝と３位入賞、男子チームが準優勝と、輝かしい成績を上げている青森中央学院大学ボウリング部。今年に入ってからも第51回全日本大学個人ボウリング選手権大会で６位入賞など、部員たちの快進撃が続いています。

その全国的な強豪として名を連ねるボウリング部は、2019年度の青森県教育委員会における青森県スポーツ大賞、青森県体育協会の青森県特別優秀選手賞と青森県優秀選手賞に選ばれました。

受賞された選手の皆さん、おめでとうございます。そしてこれからも練習に励み、頑張ってください。

青森市産官学連携プラットフォーム事業

「ハリウッド・クリスマス・パレード」のLAねぶた運行に参加

2019年12月、ロサンゼルスの一大イベントである「ハリウッド・クリスマス・パレード」での「LAねぶた運行」に、青森市内大学・短大の学生が参加しました。青森市産官学連携プラットフォーム事業の一環です。本学からは経営法学部の学生５名が、囃子演奏とハネトで参加し、イベント前日にＬＡねぶた囃子保存会と合同練習を行って、本番に臨みました。青森からの参加者たちは現地の人々と共に、ドルビーシアター前のレッドカーペットをスタートし、ハリウッドのメインストリート5kmを堂々と練り歩きました。

また、今回のツアーでは、ジャパンハウスLAにて海部館長から日本の文化発信等について講話があり、全米日系人博物館では戦争体験者の方から話を聞きました。ＬＡねぶた囃子保存会はじめ現地の人々との交流が、学生たちのかけがえのない経験として胸に焼きついたようです。

HAKODATEアカデミックリンク参加報告

経営法学部４年　生駒 優成　齊藤 真輝

HAKODATEアカデミックリンクでのポスター報告は、私達２人にとって刺激的な経験でした。特に、私達と同世代の参加者が様々なテーマに多様な視点からアプローチし、その成果を生き生きと説明する光景に圧倒されそうでした。しかし、平静を装いつつ、私達の展示ブースの訪問者に、研究成果の説明を繰り返しました。

研究内容は「青森縄文遺跡群の魅力を、多くの人々に伝えるための手段を再構築し、その魅力を知った人たちが周囲に次々と魅力を伝えたくなるような仕組みの開発」でした。特に、「縄文伝道師認定試験」という私達のアイデアに対して、多くの意見やアドバイスを得られたので、今後に活かしていきたいと考えています。

学生発「選ばれる青森」への挑戦参加報告

経営法学部２年　赤平 樹生

私たちは、2019年12月20日、学生発「選ばれる青森」への挑戦フォーラムで、「介護士を憧れの職業に」とのタイトルで宅幼老所の設置が憧れの職業になる鍵となる、との報告をしてきました。

長野県には400か所以上の宅幼老所があるのに、本県には宅幼老所は皆無です。このような違いが生じる理由を調べるために、長野県庁に電話をしたり、青森市役所、保育園、こども園等を訪問したりしました。発表に至るまでたくさんやるべきことがあり、それを協力しながらやるという貴重な経験ができました。

また、フォーラムでは県内４大学10グループの学生による報告を聞きましたが、青森県について知らないことがたくさんあると感じ、もっと勉強したいと思いました。

高大連携事業

青森商業高等学校と高大連携協定を締結

高大連携プログラムとして、国際産直プロジェクト「タイ空輸直送便マンゴー販売」を行ってきた青森県立青森商業高等学校と青森中央学院大学は、これまでより一層の連携を充実させるために、高大連携協定を締結しました。これは、青森中央高等学校、青森西高等学校に続いて３校目の締結です。

青森商業高等学校との高大連携事業では、この国際産直プロジェクトの他にも、経営法学部の内山清教授を講師に「新しいビジネスを考えよう」というテーマで、さまざまなビジネスモデルを学ぶ講座を行っています。

今後、大学の正規授業への高校生参加や、協働で国内外のフィールドワークを実施予定とするなど、高大連携事業をいっそう推進してまいります。

特別公開講座

安部龍太郎氏の講演と対談で歴史小説の醍醐味を堪能

2019年10月、本学の特別公開講座として、直木賞受賞の歴史小説家である安部龍太郎氏を講師として本学にお迎えし、歴史小説の書き方についての基調講演と、その後、安部氏と東奥日報社編集局論説編集委員である斉藤光政氏との対談を行いました。

安部氏は多数の歴史小説を著し、桃山時代の画家、長谷川等伯を題材にした小説『等伯』で第148回直木賞を受賞しています。

今回の講演では、中世津軽の豪族、安藤氏をテーマにした最新作『十三の海鳴り』についての県内外における緻密な取材に基づく執筆活動のことなど、多彩な話を聞くことができました。

学生団体ディベラボの活動

オリジナルスウィーツ「りんごころ」販売中

青森中央学院大学と青森大学の学生で組織する学生団体「ディベラボ」は、食を通じた地域活性化に取り組んでいます。昨年、青森県の名産品となるスイーツを開発しようと、青森市内の老舗和菓子店「二階堂」と協力して考案した青森県産ふじを使用したオリジナルスウィーツが、今年４月から販売開始となりました。

販売されているのは、二階堂さん特製のりんごあんを何層にも織り込んで作ったりんごのパイ「りんごころ」(税込230円)です。昨年の学園祭「翔麗祭」や「クリスマスマーケットinアスパム」、「八甲田丸カウントダウン2020」イベント等での試験販売を経て、2020年４月から店舗（二階堂本店、イートファン）とインターネットで販売されています。また、郵便局のネットショップでもセット販売されており、青森の名産品目指して売り出し中です。

自主防災組織DESTの活動

「地域の防災を考える」学生組織が始動

青森中央学院大学生による自主防災組織DEST（Disaster Emergency Support Team）は、経営法学部と看護学部の学生から構成されています。構成メンバーのほとんどは「防災士」の資格を持っており、自身の防災力向上はもちろん、地域の防災における「共助」の観点から、自分たちにできることを拡大させる活動に取り組んでいます。

2019年より、大学キャンパスが位置する青森市横内地域との連携で、横内中学校を会場に開催された「青森市総合防災訓練」に参加・サポートを務めたり、学生目線による横内地区のハザードマップ製作に取り組んでいます。

地域の防災活動への参加で本格始動したDESTのメンバーは、黄色いユニフォームが目印です。

ローマ教皇よりメダル親授

本学、大泉光一教授がローマ教皇より招聘を受け、メダルを親授される

2019年末、ローマ教皇が日本の被爆地を訪れ、核兵器廃絶に向けたメッセージとしたニュースは、日本人の記憶に刻印されるイベントでした。その教皇から、本学経営法学部の大泉光一教授が、東京都内にある駐日ローマ教皇庁大使館に招聘を受け、2019年12月26日、教皇自身と面会されるという栄誉に浴されました。

大泉教授の、支倉常長及び慶長遣欧使節団をはじめ、日本におけるカトリック布教の黎明期に関する膨大な一級の資料に基づいた研究の数々が、ローマ教皇の評価を受けたものと思われます。写真は、教皇より、直接親授された訪日記念のメダルとロザリオです。本学にとっても、この上なく、名誉なことであります。

国際交流センターより

台湾交換留学で感じたこと

経営法学部３年　小形 勇翔

2019年９月～2020年１月：南台科技大学に留学

日本への関心の高い国！

一番驚いたことは、日本について興味・関心がある人が多いということです。台湾では日本の文化に触れる機会が多く、テレビでも日本のアニメやバラエティ番組の専用のチャンネルがあります。外食の際は日本人というだけでサービスをしてくれるところも珍しくありません。

誇れる点、見習う点

日本の学生が誇るべき点は時間通りに行動して、計画性があることだと思います。これは学生に限らず日本人の誇るべき点だと思います。他国の学生を見習うべき点は、言語が違っても積極的に会話をしてくれることです。

私は外国語能力が最も低い国は日本だと思います。他国の学生は間違えても恥ずかしがることがありません。この姿勢は言語学習に限らず重要なことだと思います。

準備こそが留学の質を決める

留学では現地で何をするかもとても重要ですが、準備の段階が非常に大切です。準備の中には言語の学習や金銭のことなどが含まれますが、準備次第でどんな経験ができるかが全く違うと思います。これは現地で私が身をもって感じていることです。十分に調べて、十分に学習することで素晴らしい留学になると思います。

中国交換留学で感じたこと

経営法学部４年　寺沢 康佑

2019年9月～2020年1月：北京第二外国語学院に留学

消去法で決めた留学先

私が中国に行こうと思った理由は、正直、消去法でした。まず長期留学をしたかったこと、青森中央学院の交換留学システムを利用したかったこと、この二つから候補を絞ると台湾、上海、北京になるでしょう。多くの人は、英語圏に行きたいと思っているのではないでしょうか？私も大学２年あたりまでは英語圏に興味を持っていましたが、英語圏の長期留学は経済的にも時間的にも現実的でなく、そこで中国に目を向けたのでした。実際に中国に来てみると、日本のメディアを通して感じている悪いイメージはごく一部にすぎないことに気づかされました。

英語は話せて当たり前

留学生同士での会話は、英語ができて当たり前の環境です。日本にいてはこのような環境を作ることは難しいでしょう。これは私が海外に出て感じたことですが、日本人の多くは英語を勉強したがりますが、他国の留学生は最低限英語ができ、それにプラスして中国語を学んでいる人が多いのです。今後日本でも英語ができて当たり前という時代が来るとして、年々日本に来る中国人が増えていること、日本から中国語圏内に進出している企業が多いことを踏まえ、中国語を学ぶことは今後の自分の武器にもなると思います。

今できることを最大限に

看護学部４期生　下森 楓香

今年は新型コロナウイルスの影響により、実習や就職活動に影響が出ています。看護学実習では、病院での実習が中止となってしまうことが多く、学内での実習を行っています。学内でも臨床と変わらず看護実践が行えるように、先生方が工夫を凝らした内容で丁寧に指導をしてくださっています。自粛の状況が続くなか、実習が行えることのありがたみを感じています。根拠ある技術や個別性のある看護を行うことができるように、じっくり知識を身につけ、実際の臨床をイメージしながら取り組んでいます。

就職活動は、インターンシップや選考が中止・延期となっている状況です。私が第一志望にしていた関東の病院は、書類審査のみの選考に変更となりました。キャリア支援センターやアドバイザーの先生方に、就職活動の相談、願書や小論文の添削をしていただき、無事、内定が決まりました。関わってくださった全ての方々にとても感謝しています。

新型コロナウイルスは、実習や就職活動にも大きな影響を与えており、マイナスに捉えてしまうことがあると思います。しかし、この状況の中でも、今の自分に何ができるか、今だからこそできることは何かなどを考え、今できることを最大限に行動することが大事だと感じました。プラスに考えて自分自身を磨けるように取り組んでいきたいと思います。

飛翔式について ~飛翔式実行委員として~

看護学部５期生　宮川 日向子

2019年10月19日、青森中央学院大学看護学部５期生の「飛翔式」が行われました。看護学部２年生は、４年間の折り返しの時期で、基礎看護・教養科目に続き、２年次後期から幅広い多くの専門科目を学修して行きます。飛翔式は、今後の授業や臨地実習に臨むにあたり、学修に対する気持ちや姿勢を明確にするために行います。

準備段階ではクラスリーダーが中心となり、関連行事や式の企画、ボードの作成を行います。私たち５期生は、看護師に求められるのは「尊重と愛情」、「先見の明」であると考え、それが花言葉であるイチゴをボードのモチーフにしました。そのボードに、５期生一人一人が今後の学修に対する志を掲げました。私は式典で５期生の代表として「誓いの言葉」を宣誓するにあたり、間違うことのないよう、日々の練習に取り組みました。本番は緊張しましたが、会場にいる方々の前で自信を持って宣誓することができました。

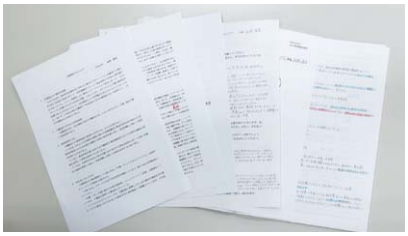
何度も行った放課後のミーティング、関連行事や飛翔式関係者との意見交換、クラスメイトのボード作成への協力、これらがあってより良いものを作り上げられたのだと、実行委員として考えています。また、クラス全員で一つの式を成功させることができて良かったです。これからも、専門科目の学修と臨地実習での経験を積み、看護師になるうえで必要な知識を身につけていきたいと思います。

新型コロナウイルスの影響を受けて

看護学部５期生　船橋 慶香

新型コロナウイルス感染症による臨時休校期間中は、自宅での課題学習に取り組みました。一人で学習しなければならず困難を感じる事もありましたが、休校により自宅にいることが多くなった時間を有効に利用して、教科書や授業プリントを読み返し、じっくりと課題に取り組むことができました。

現在は、様々な感染予防対策を行いながら、対面での授業を再開することができています。授業は再開されましたが、感染防止のためグループワークができなかったり、臨地実習が中止になったり、様々な制限の中で学習をしています。グループワークや臨地実習は、看護の授業において学びを深める重要な機会となっているため、それらの活動ができず残念です。そして、これまで普通に授業や実習をできていたことが、当たり前ではなかったということを実感しています。一日でも早くこの感染症が収束し、授業や実習などが普通にできる環境が戻ってきてほしいと思います。



健康の大切さ

看護学部６期生　山本 晴香

私は、新型コロナウイルスの影響で休校になってしまった期間を利用して、免疫力をアップできるよう、健康的な体づくりに取り組みました。まず、体力アップのためにストレッチや軽い運動を始めました。大学生になってからは、高校生の頃までとは違い運動をする機会が少なくなり、ほとんど体を動かすことが出来ていませんでした。体を動かしたいとは思っていたものの、なかなかできていなかったので休校期間で取り組みました。

久しぶりに体を動かしたため初めはきついと感じましたが、だんだん体力がついてくるのが分かりました。運動だけではなく規則正しい生活も必要だと考え、これまでの時間の使い方を見直して睡眠時間を確保するようにしました。やらなければならない事は早め早めにやってしまい、早く寝るように心掛けました。食事も栄養バランスを考えながら、しっかり食べるようにしました。

授業が再開した今、休校期間で取り組んだ健康的な体づくりの大切さを実感しています。休校期間で獲得した健康的な生活習慣を、できるだけ継続したいと考えています。

寮でのコロナ対策

看護学部７期生　米谷 結姫乃

こぶし会館では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な対策をしています。その対策を紹介します。まずは、感染しているかもしれないことを想定して、拡大させないための取り組みです。入浴時間やトイレ、洗面台を区別しています。また、青森県外から帰館した場合は、他の会館生との接触を防ぐために待機期間を設けて、その間は自室で食事ができるよう弁当にしています。

次に、自らが感染しない取り組みです。館内には消毒薬が設置されており、玄関や食堂では必ず使用するようにしています。そして、食堂では向かい合わせにならず横に並び、座席も減らして距離をあけて座っています。

緊急事態宣言の影響で外出を控え、憂鬱な気持ちになるときもありましたが、会館長や会館アドバイザー、そして管理人の方のサポートのおかげで、感染者を出すことなく過ごしています。保護者にも感染予防の取り組みを発信し、入館説明時から三密をさけるなどの迅速な対応がされており、安心して寮生活を送ることが出来ています。

認知症ほっと三行レター表彰式

看護学部４期生　宮地 真帆

３年次前期に認知症高齢者対応型グループホームでの実習がありました。実習前のオリエンテーションで、公益社団法人認知症の方と家族の会が募集している「認知症ほっと三行レター」の紹介があり、いろいろな方の認知症の方への想いを見て感動し、まだ実習に行く前なのに熱い想いが込み上げてきました。実習終了後に、自分の祖母への気持ちを表現して応募したところ、思いがけず優秀賞をいただきました。後日、八戸市で行われた認知症フォーラムで表彰式があり、家族だけではなく先生や友人がわざわざ足を運んでくれました。先生、友人、家族、そしておばあちゃん、改めてありがとうございました。

優秀賞　宮地　真帆　さん
青森中央学院大学

夕暮れ時になると小学校へ行きたがる
おばあちゃん。
私を迎えに行くんだって。
もう休んでも大丈夫だよ。
愛をいっぱいありがとう。

青森中央短期大学

青森中央短期大学の開学50周年を記念して

「ちゅっぴぃ」が誕生しました

「ちゅっぴぃ」という名前は、「AOMORI CHUO JUNIOR COLLEGE」と、「Happiness（幸せ）、Peace（平和）、Piece（作品、一片）」から名付けられました。

「ちゅっぴぃ」はビオトープの森に住んでいる優しい妖精で、まあちくん（青森中央学院大学マスコットキャラクター）と仲良し。お料理することと歌うことが大好きで、ポケットに不思議な種を持っています。

「ちゅっぴぃ」の種に気づいていますか？
あなたのところにも届いているかもしれませんよ。

ちゅっぴぃと出会い
不思議な種をもらった人は
種を育て　素敵な花を咲かせていく
花からは　また　新しい種が生まれ
それを　次の誰かへと送っていくこと
ココは（青森、居場所、心の中に）
幸せに（豊かな自然、優しさ、暖かさ、人、美味しいもの、元気な子どもたち、充実した教育）
包まれていく

福祉セミナー「介護ケアから生まれる『笑い』と『生きがい』」

2019年11月２日、福祉・介護の将来の担い手たる中・高生から現在介護を学んでいる大学生等をはじめ、現任の介護職の方々、さらには近隣住民の方々等を対象に、作業療法士として介護施設（デイケア）で働きながら、フリーのお笑い芸人・舞台俳優の活動等を行っている介護エンターティナー・石田竜生（いしだたつき）氏による講演「介護ケアから生まれる『笑い』と『生きがい』」が、本学・学術交流会館にて開催されました。

当日はおよそ90人の来場者があり、講師の石田氏による笑いを交えた講演に熱心に耳を傾け、また石田氏の指導の下、その場でも簡単にできるリハビリ体操等を実際に行うなどして、介護に関する多くを学んでいる様子がうかがえました。

幼児保育学科のミュージカル公演

保育者としての学びの場

幼児保育学科では、保育者に求められるさまざまな表現力を養うことを目的に、２年生全員でミュージカルを制作・公演しています。２年生の１年間を通して、造形・音楽・身体の３分野について表現の基礎から学び、それらを応用してミュージカル制作へとつなげていきます。

ミュージカルでは、舞台造形班・音楽隊・キャストとして、一人ひとりが表現力を発揮して１つの作品にまとめあげます。公演では、数百人のお客様に来場していただき、たくさんの称賛の言葉をいただいています。発表までの大変な努力とその成果としてのお客様からの称賛は、保育者としての自信の礎となっていくのだと思います。

幼児保育学科49期生「ブレーメンの音楽隊」公演の様子。青森中央短期大学のミュージカルはホームページでも動画公開しています。

食育セミナー開催

自立した食育活動の展開を目指して

将来ビジョン実現プロジェクト「ヘルスコミュニケーションを用いた食育活動の展開事業」により、「自立した地域食育活動の展開を目指して～子どもを対象とした食育活動の充実に必要なこと～」をテーマに食育セミナーを実施しました。
子どもの食育活動の充実に向けて平本福子先生からご講演、食生活改善推進委員会会長の山谷詠子氏、木の実こども園の和田志織氏から食育実践の成果と課題を報告していただき、意見交換を行いました。

なお、セミナー開催に先立ち、食育の取り組みのポスター発表と展示が11件行われました。多職種、多方面から食育に関わる方々にご参加いただき、食育の重要性を学び今後の活動に活かしていきたいとのご感想もいただき、食育実践者である参加者皆様の実践を推進する機会となりました。

あおもり食育推進大会2020

食物栄養学科１年生が出展

2020年２月15日「あおもり食育推進大会2020」が東奥日報新町ビルNew'sで開催され、食物栄養学科の１年生が、食育展示・体験コーナーにブース出展しました。

本学では、一般の来場者の方を対象に「青森を元気にする食育！」をテーマとして、樹の実プロジェクトの活動紹介や本学カフェテリアでの取組紹介、食育教材の展示、青森を応援する縄文風レシピの紹介を行いました。また、樹の実プロジェクトによるスイーツと、縄文風おむすびの試食提供も行いました。

参加した学生は、ブースに来られた方とのコミュニケーションや、他の大学・団体のブースの見学などを通して、食育への学びを深める機会となりました。

地域の食育活動「みんなの食堂 in CHUTAN 2019」から

「令和元年度青森県「みんなの食堂」運営モデル実証業務」に採択され、2019年９月から全12回にわたり、地域の方々と連携した食育活動を実施しました。

12月15日には「地域の食材でプチクリスマスパーティ」と題して、専攻科福祉専攻の学生７名が、食物栄養学科の先生方にご指導いただき、地域にお住まいの小さなお子様から高齢者の方と共に調理体験、喫食をさせていただきました。参加者からは「日頃の育児や介護の中気分転換になった」と喜びの声もあり、また青森中央学院大学在学である中国人留学生３名も参加し、「中国ではあまり地域の活動として調理体験がないからとても楽しかった」との声。このフィールドワークから学生は、小さなお子様から高齢者の方までのコミュニケーションに戸惑うことなく接していたことに学生の成長を覚える機会となり、ご支援いただきました先生方や地域の方に心より御礼申し上げます。

（専攻科福祉専攻　齋藤 雅美）

まちなかキャンパス講座

ライブで楽しむ「中短JAZZ講座」Vol.2

2018年度に「まちなかキャンパス講座」の新企画としてスタートしたJAZZ講座は、おかげさまで大好評に終わり、引き続き2019年度も9月と11月の二回公演を実施しました。毎回来てくださる方や、初めて来てくださった方も含め、最終回では100名定員のところ142名の方々が足を運んでくださいました。

本講座は、JAZZにまつわるお話しと演奏を会場の皆さん全員で一緒に楽しめる内容となっております。卒業生の方も聴きにいらしておりますので、是非、またの機会がありましたら足を運んでみてください。

皆さんと会場でお会いできる日を、楽しみにしています！

（幼児保育学科
木村 貴子）

社会人のための 進学説明会

～ 学び直しCafé ～

2019年11月、学内に設置している「＋C（プラスシー）」において、１週間の期間を設けて社会人のための進学説明会を実施しました。学費、時間割、学業、就職等、職員や教員による具体的なお話の他、社会人在学生も参加し、実際の学生生活等について和気あいあいと説明会は進められました。

特に、現在ハローワークでは、非正規雇用での就労経験が長く、スキルや資格を取得して正社員就職を目指す方の為に「長期高度人材育成コース」を設けています。本学は、この制度を利用して栄養士・保育士資格の取得を希望する社会人の方々を、３年間で30名受け入れ、昨年度は、社会人卒業生全員が正社員として就職しました。

皆さんのお知り合いで詳しい説明を聞いてみたい方がおりましたら、時期を問わず是非事務局までご相談ください。お待ちしております。

フードスペシャリスト資格認定試験合格

全国の成績優秀者に選ばれる快挙

食物栄養学科49期生の工藤雪乃さん（2019年度卒）が、昨年12月に行われた、公益社団法人日本フードスペシャリスト協会主催「フードスペシャリスト資格認定試験」のうち「専門フードスペシャリスト（食品開発）資格部門」を受験し、見事に全国の成績優秀者に選ばれました。食品開発部門の受験者は539名で、合格者は84人（合格率15.6％）ですが、そのうちの上位13位以内に入るという素晴らしい成績を修めた快挙です。

工藤さんは、「２年間でたくさんのことを学んだが、資格取得のために履修した食品加工学実習では、普段何気なく購入して食べている食品を自ら作ることで、さらに深い学びや発見を得ることが出来た。食の専門家として、短命県といわれている青森県に貢献できるような栄養士になれるよう努力し続けたい」と話し、現在は、県内の病院で栄養士として活躍しています。

AOMORIおうちごはんBOOK

青森県が若い世代を対象に、健康的に過ごしていただくための食育啓発冊子「AOMORIおうちごはんBOOK」を作成し、食物栄養学科の学生たちが作成に協力しました。

プロのカメラマンの方から演技指導を受け、緊張した様子も見られましたが、学生は楽しそうにキラキラの笑顔で撮影に臨み、貴重な体験となりました。

学生が考案した、健康的で手軽なレシピが紹介されています。ぜひご覧ください。食育で青森県を元気にする大学として、今後もさまざまな取り組みを発信してまいります。

ビオトープサークル

全国学校・園庭ビオトープコンクール2019「日本生態系協会賞」受賞

ビオトープサークルは2016年にビオトープが開園して以降、サークル所属学生と附属第一幼稚園との合同保育を活動の中心とし、法人事務局、附属幼稚園の支援・協力のもと活動を続けてきました。その活動内容が認められ、全国学校・園庭ビオトープコンクール2017では「ドイツ大使館賞」、全国学校・園庭ビオトープコンクール2019では「日本生態系協会賞」を受賞いたしました。法人事務局の関係職員、附属幼稚園の教職員の皆さまにはこの場をお借りし改めて感謝申し上げます。

本サークルでは、今後もビオトープを活用した合同保育を中心に、園児の「センス・オブ・ワンダー」をくすぐる活動を学生とともに考え、実践し、幼児教育にとっての自然環境の意味を理解した保育者の養成を行っていきます。

JAFドレミぐるーぷ

信号機を使って交通安全教室

ドレミぐるーぷ８名の学生が赤・青・黄色のTシャツを身に着け園児の交通安全指導に活躍してくれました。青森市内のA保育園での公演は、JAFさんから提供された信号機を使用し、横断歩道の渡り方について点滅サインを入れながら、子どもたちに考えさせ、判断させながら横断する時のポイントをしっかり教え、ルールを守ることの大切さを伝えました。

学生は、保育技術を活かしながら、30分のプログラムに、ショートストーリー、歌、ゲーム、クイズを入れ関心を引くためのアイデアを出し合い、工夫や練習を重ね公演に臨んでいます。子どもたちの反応と、学生の表現力がマッチングすると笑顔も最高です。JAFさんとの反省会もとても勉強になっております。

（顧問　大沢 陽子）

先生の自分史

食物栄養学科　白取 敏江 先生

自分史を書くにあたり、前回は幼少期（幼稚園～小学校）のことを書いたのですが、今回はもう少し現在に近い、前職の時のことを書きたいと思います。

以前の職場である病院では主に給食の運営に携わっていました。厨房業務では苦手な料理（食べるのが、ではなく作るのが）もあったのですが、繰り返し作るうちに慣れていき、慣れてくると次はどうしたら効率よく作業を進められるか考えるようになりました。効率よく進めるためには、献立を考える段階から同時に作る他の料理と使用する食材や調理機器が重複しないことなども考慮することが必要です。これらのことは、今、本学で携わっている「給食管理」関係の授業に生きているな、と実感しています。

研究室を訪ねて

幼児保育学科　松浦研究室

松浦研究室では、松浦先生の指導のもと、文献や論文を使い、気になる子・障害を持つ子ども・定型発達とされる子ども・保育者も含めて「みんなが過ごしやすい環境」を作るための保育について研究を行ってきました。

特別研究では、年度初めに研究を進める目安を提示していましたが、その後は強制ではなく私たちの状況に応じて調整して下さったので、自分のやれる速さで研究を進めることができました。

また研究室を随時使わせてくださったので、場所に困ることなく研究を進められたし、分からないことがあればすぐ質問することができ、研究をスムーズに進めることができました。そして締め切り前には特研のメンバーで集まり励まし合いながら論文を書き上げました。

共同研究をしていると、時には意見が食い違うこともありましたが、考えを図に表し説明しあったり、先生に質問したりすることで、お互い納得して研究をすすめることができました。そして、発表が終わったあとにはメンバー全員で集まって打ち上げをし、いい思い出になりました。

（2019年度特別研究メンバー：松山倭子）

附属第一・第二・第三幼稚園/中央文化・浦町保育園

教　育　方　針

ー健康で明るく心豊かな子どもー

●友達と仲良く遊ぶ。　●よく見、よく聞き、よく考える。
●思ったことははっきり話す。　●自分のことは自分でやる。

認定こども園附属第一幼稚園

ドキドキの入園式　しまじろうのダンスで盛り上がったよ☆

内科検診　みんなのからだは元気かな？

みんなで作ったこいのぼり　お空で気持ちよく泳いでるよ☆

認定こども園附属第二幼稚園

ご入園おめでとうございます。第二幼稚園の仲間入りだね。

お友だちとボールを落とさず、運べるかな～。

お天気のいい日は、お外でひなたぼっこ気持ちいいなあ。

認定こども園附属第三幼稚園

パパ、ママと一緒の入園式。おめでとう。

避難訓練。口をおさえて非常階段から真剣に！年長さん。

さくら誕生会。今年のお花見は園内で！

浦町保育園・中央文化保育園

ベランダで園庭の桜を見ながらの給食、とってもおいしかったよ！

初めてのお散歩。

歯科検診。

先生達活躍しています　第20回

「子どもたちに元気をもらっています」

認定こども園附属第二幼稚園

鹿内 由香先生

第二幼稚園で保育士として勤務して、もうすぐ５年になります。一般企業で10年以上働いていたので、ブランクのある保育の仕事を始めることに不安もありました。それでも温かく見守り、指導して下さった先生方のおかげで、今は子ども達の日々の成長を間近に感じられる保育士という仕事に、やりがいと大きな喜びを感じています。また、異業種の経験が意外な場面で生きることもあり、それも嬉しく思います。

昨年度は１歳児担任となり、日ごとに成長していく様子を、先生方や友だちと一緒に喜んだり、だんだん会話が上手になる子ども達といろんな話をしたり、楽しく過ごしました。

「できた！」を一緒に喜べることが多く、子ども達の嬉しそうな顔に元気をもらっています。言葉かけや保育の内容など、悩んだり反省することもありますが、これからも子どもの気持ちを受け止めて、一緒に成長していきたいと思います。

「言葉にして伝えること…」

幼保連携型認定こども園浦町保育園

加藤 ますみ先生

この３月に新園舎が完成し、子どもたちは心躍らせ、私たち保育者は気持ちを新たに日々頑張っています。今年度は、１歳児の担任となりました。『自分でできた！』嬉しさや楽しさを積み重ね、身の回りのことが少しずつできるようになってきている子どもたちと毎日楽しく過ごしています。

このような中で、働き始めの頃先輩からかけてもらった言葉をよく思い出します。何気ないひとことだったかもしれませんが、私はその言葉がとても嬉しく、今でも励みにし、実践しています。泣いている子の思いに共感し、代弁することで子どもたちは安心し、表情が和らいだり、泣き止んでくれます。言葉で伝えることの大切さに改めて気づかされます。

大人に対しても同じだと思います。私の周りにいるたくさんの後輩の不安や悩みにしっかり耳を傾け、アドバイスすると共に、良いところを認めそれを言葉で伝えていきたい。そのためにも、私自身がもっとキャリアを積み、成長していきたいと思います。

新園舎完成しました

幼保連携型認定こども園　浦町保育園

今年の春に新しく建てかえられた浦町保育園。２階建ての白い外壁にカラフルなブロックパネルが貼られ、玄関ホール天井のステンドガラスの光が入り込み、明るく開放感あふれる園舎が完成。また、広い園庭と屋上園庭が設置され、快適な環境の中で教育・保育活動を行っています。

新園舎完成。こいのぼりと一緒に。

読み聞かせたい一冊の絵本

認定こども園附属第三幼稚園　齋藤 智子先生

『しろくまちゃんのほっとけーき』

わかやま けん　文、絵　（こぐま社，1972）

この絵本は、しろくまちゃんがお母さんと一緒にほっとけーきを作り、食べる楽しみ、そして後片付けを順序よく楽しく書いています。特に、ほっとけーきをフライパンに流し入れてからの「ぽたあん　どろどろ　ぴちぴち　ぷつぷつ」など、作り始めてからできあがるまでの様子がリズミカルな言葉で表現されており、子どもたちの興味をかき立てます。また焼きあがるまでのわくわくする気持ちやほっとけーきの甘い匂いが言葉から伝わってきます。また、絵本の最後には、この話のねらいが書いてあり、作者の思いが伝わり、何度でも繰り返し読み聞かせしたくなる一冊です。

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

特別公開授業「meets the Fashion」

青森中央文化専門学校では、2019年8月1日(木)、特別公開授業「meets the Fashion」を開催した。国内外から注目を集めるファッションブランド「DRESSEDUNDRESSED」のデザイナー・北澤武志氏（青森市出身）を招聘し、ワークショップ形式で展開。青森中央文化専門学校の学生がパターンメーキングの授業で制作したブラウスとジャケットのトワルに、それぞれ思い思いの文字やデザインをアクリル塗料でペイントを施した。完成した作品を前に、北澤氏から「デザイナー1人の力だけでなく、たくさんの人と一つの作品を創ること。皆でクリエーションすることが大切。」とメッセージをいただいた。

あおもり藍の染色実習

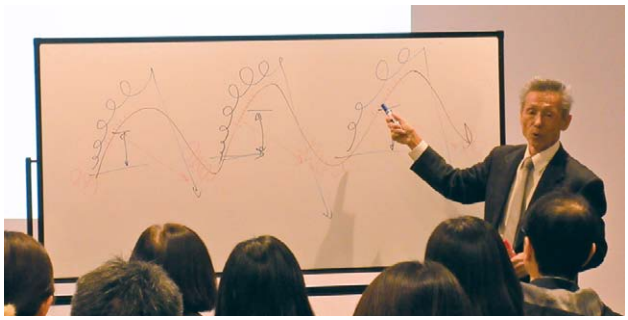
青森中央文化専門学校では、あおもり藍産業協同組合にご協力いただき、染色実習を実施した。

この実習にはトータルファッション科１年生９名が参加し、大小様々なハンカチを染色した。それぞれ絞り染め模様をつけるなどデザインにもこだわりながら、あおもり藍の知識と技術を学んだ。

青森の伝統である藍と科学の革新を取り入れ、地域ブランドとして世界から注目を浴びているあおもり藍。あおもり藍には消臭、抗菌、防虫など様々な効能や効果が期待されている。学生達は、染色実習を通してものづくりの奥深さと大変さを実感し、青森が誇る藍産業について知識を深めた。

公開講座
『長期投資の醍醐味～「ありがとう」というリターン～』

2019年11月22日、青森商工会議所１階　AOMORI STARTUP CENTERにて公開講座「長期投資の醍醐味－「ありがとう」というリターン－」を開催しました。株式会社さわかみホールディングス代表取締役の澤上篤人氏を講師に招き、講演の前半は長期投資の醍醐味などをお話ししていただきました。後半では、参加者からの質問に答える形式で進み、参加者からは様々な質問が出て時間はあっという間に過ぎていきました。参加者の中には長期投資について初めての方もおり、これを機に、長期投資に対する考え方等を深めるきっかけになったのではないでしょうか。ご参加された皆様、本当にありがとうございました。



卒業発表を終えて

2020年２月３日（月）、学術交流会館２階921教室にて2019年度青森中央経理専門学校の卒業発表を開催した。経理、医療、観光の３コースに在籍する卒業年度学生18名が、所属するコースに関連したテーマで、一人一人スライドを使った発表を行った。

２年間で学んだことや、新聞記事、ニュース等で関心をもったことをテーマに設定し、分りやすい発表を行った。経理事務コース　青山 侃道さんは、「投資信託～将来、お金のことで悩まないために～」をテーマに発表し、「司会進行も担当した。自分の発表の順番では良い緊張感を維持できた。もともと人前に立つことは苦手だったが、２年間の経験のおかげで社会に出る自信が以前よりもついた。」と感想を述べた。

経理発信情報 vol.23 パソコン講座

2019年11月２日（土）、学術交流会館３階935教室のパソコン実習室にて学生主催のパソコン教室を開催した。一般の方々を対象とした無料パソコン教室は、学生が地域住民の方々と触れ合いながら地域貢献と社会参加の大切さと各自が役割を持つことで、組織の中で考え、自ら行動することを目指して毎年開催している。インストラクター役の学生は、参加者が作成したいデザインの年賀状を、パソコン操作とデザイン等のアドバイスをしながら、約２時間で作成。参加者の方々からは、「毎年参加している。丁寧に教えてくれて分かりやすかった。とても楽しく参加できた。」と感想を頂き、学生達は自分の成長に繋がる時間を過ごした。

おススメ図書vol.21

青森中央文化専門学校　**小笠原 華子 先生**

『ココ・シャネルという生き方』 山口 路子著

「働く女性の先駆者」として、富と名声を手にした世界的ファッションデザイナー、ココ・シャネルの人生が描かれています。ココ・シャネルという女性についてほとんど知識がなかった私には、「え、シャネルってそんな人だったの？！」と、発見にあふれ興味深い内容でした。

コルセットでウエストをギュッとしめて、きらびやかな装飾をされたドレスが好まれていた時代。本物の宝石を身につけた貴婦人をよそに、シャネルは本当に自分が身につけたいものだけを作り、コスチュームジュエリーで服に負けないスタイルを見せつけました。誰も考え付くことのなかったモードな着こなしでオーラを放ち、決してフェミニンではなく、むしろどこか傲慢であるのに品があり、でもどこか強さを感じさせる格好いい女性だと思いました。自分で引いた道をまっすぐに進み、人と違うことを恐れず、自分の個性をいかんなく発揮して、女であることを楽しむ、真の意味で自立した女性が、人生を賭けて築いたブランドが"CHANEL"なのだということを忘れないでいたいと思いました。

ファッション通信 vol.21

～ Bunka Fashion Live 2019 ～

2019年12月15日（土）、アウガ５階AV多機能ホールにてファッションショー Bunka Fashion Live 2019「Unlimited」を開催した。本ショーは企画・演出・構成・照明・音響まで全て学生達の手でつくりあげた。

学びの集大成として、デザイン、衣装制作、ヘアメイクからウォーキングに至るまで、日頃学んでいる知識や技術を存分に披露した。ゲストモデルとして参加していただいた皆様や、ヘアメイクのご協力をいただきました青森県ビューティー＆メディカル専門学校の学生の皆様など多くのご協力とご支援をいただき、ファッションショーは大盛況のうちに幕を閉じることができた。

卒業生ピックアップ No.32

青森中央経理専門学校　2018年度卒業
青森慈恵会病院 勤務　松山 希亜さん

私は2018年度に青森中央経理専門学校の医療事務コースを卒業し、現在、青森慈恵会病院の医療事務員として働いています。私は、地元の医療事務員になりたいという夢を叶えるために医療事務コースに入学しました。実際、病院で働いていると、思ったよりも毎日忙しいですが、患者様に「ありがとう」と言っていただけることが嬉しく感じ、仕事のやりがいを感じる日々を送っています。大変なことは多いですが、学校で学んだ事を忘れずに一日でも早く一人前の医療事務員になるように頑張っています。後輩のみなさんも、自分の夢を叶えるために、学校生活を有意義に過ごしてください。

新教職員紹介

① 職位・氏名
② 出身
③ 担当
④ 抱負

青森中央学院大学

経営法学部

①教授　三上　雅生（みかみ まさお）
②青森県
③英語Ⅰ・Ⅱ、道徳教育の指導法･理解、生徒指導と教育相談、教育方法論、教育実習
④教職をめざす学生のために、教師としての資質能力が高まるよう、微力ですが尽力したいと思います。

①教授　井原　孝延（いはら　たかのぶ）
②静岡県
③グローバル人材育成、ビジネス戦略論
④世界のどこでも、誰とでも堂々と仕事が出来る人材を育成したい。コミュニケーションツールとして英語は必須。

①准教授　楠奥　繁則（くすおく しげのり）
②岡山県
③経営組織論　経営管理論　経営学入門
④研究テーマでもある農業の“６次産業化”を通じて、青森県の地域活性化を目的に本学の学生と一緒に尽力していく所存です。

①講師　山谷　清秀（やまや きよひで）
②青森県
③政治学、行政学、現代政治論
④青森生まれですが、青森で暮らすのははじめてです。行政の苦情処理について研究しています。興味があれば、ぜひ研究室へ来てね！

青森中央短期大学

専攻科福祉専攻

①講師　天間　美由紀（てんま みゆき）
②青森県
③社会福祉領域（子ども家庭福祉、社会的養護等）
④自分のこれまでの経験が少しでも学生の皆さんに還元できるよう、頑張っていきたいと思います。これからどうぞよろしくお願いいたします。

青森中央文化専門学校

①小笠原　華子（おがさわら はなこ）
②青森県
③服飾造形
④卒業生として、これまでの経験を活かし服を作る楽しさを教えていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

認定こども園青森中央短期大学附属幼稚園

認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園

①神　智美（じん ともみ）
②青森県
③つぼみ１歳児
④言葉のやり取りだけでなく、遊びを通した子どもとの心地よい共感、関係性を築きながら過ごし、めざましい成長をする今のこの時期を大切にしたいと思います。

認定こども園青森中央短期大学附属第三幼稚園

①松尾　奏（まつお かなで）
②青森県
③こばと組３歳児
④元気いっぱいの子どもたちと一緒にたくさん触れ合いながら、日々、楽しみ、頑張っていきたいと思います！

①山口　みずほ（やまぐち みずほ）
②青森県
③栄養士
④給食の時間がいつも楽しいと思ってくれるようなメニューや給食をつくれるように頑張ります。

認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園

①田中　結菜（たなか　ゆな）
②青森県
③フリー
④子ども達とたくさん遊んで、仲良く過ごし、毎日笑顔を忘れず頑張ります。

①外崎　好華（とのさき みか）
②青森県
③４歳児もも組
④子ども達が毎日笑顔で楽しく過ごせるよう、先生方と協力して保育していきたいです。

幼保連携型認定こども園中央文化保育園・浦町保育園

幼保連携型認定こども園中央文化保育園

①高谷　明子（たかや あきこ）
②青森県
③３歳児うさぎ組
④一人ひとりの子ども達と楽しく過ごせるように、元気いっぱい明るく頑張ります。

①村上　忠（むらかみ ただし）
②青森県
③用務員
④子どもたちの送迎では、安全第一で、園内環境もしっかりと整えて、子どもたちのために頑張りたいと思います。

①平野　理緒（ひらの　りお）
②青森県
③０歳児ひよこ組
④毎日子どもたちが楽しく元気に過ごせるよう見守り、一緒にいろいろな経験を通して楽しく頑張ります。

幼保連携型認定こども園浦町保育園

①坂牛　鞠子（さかうし まりこ）
②青森県
③１歳児　つくし組
④学んだことを生かしながら、子ども達と楽しく活動し、毎日笑顔の絶えない保育を心がけたいと思います。

①鳥山　夏海（とりやま なつみ）
②青森県
③栄養士
④子ども達がいつも健康でいられるように一人一人の必要な栄養素、アレルギーに配慮し、美味しい給食を提供したいです。

①細川　美樹（ほそかわ　みき）
②青森県
③調理員
④子ども達に「今日も美味しかったよ」と言ってもらえるように毎日、丁寧に心を込めて給食を作っていきたいです。

①野藤　祥子（のふじ しょうこ）
②青森県
③調理員
④好き嫌いがある子でも、見た目や色で「食」を楽しんでもらえるような給食を作っていきたいと思います。

事務局

①安達　健夫（あだち たけお）
②青森県
③学習支援センター　副センター長
④この春、県立高校を定年退職しました。皆さんと共にまた新たな「学び」の世界を広げ、共に成長できるよう頑張る所存です。

①佐藤　敏行（さとう としゆき）
②東京都
③進学アドバイザー（北海道地区担当）
④北海道の高校生に本学の良さを分かってもらえるよう、努めてまいりたいと思っています。よろしくお願いいたします。

①福士　梨紗（ふくし りさ）
②青森県
③入試広報センター
④業務を通じて貢献できるよう、努めます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

①小笠原　直美（おがさわら なおみ）
②青森県
③キャリア支援課
④１日も早く仕事に慣れて戦力になれるように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

①間形　裕子（まがた ゆうこ）
②青森県
③総務課
④まだまだ分からないことばかりでご迷惑をおかけしていますが、皆様のお役に立つことができるよう頑張りたいと思います。

①小比類巻　廉（こひるいまき れん）
②青森県
③総務課　情報・教育機器担当
④これまで培ってきた経験をいかして、より迅速な対応をできるようにしていきますので、よろしくお願いいたします。

①梅田　裕子（うめた ゆうこ）
②青森県
③総務課
④学園業務は初めてで勉強になることがいっぱいです。皆様のサポートができるよう、一生懸命取り組みたいと思います。

学園共通

青森中央短期大学将来ビジョンのロゴマークを公募します

青森中央短期大学は、昭和45年の開学から今年で50周年を迎えます。この開学50周年にあたり、本学の将来ビジョン「情熱あふれるプロフェッショナルを輩出し、ともに地域といきる大学」の実現に向けて、将来ビジョンロゴマークを公募いたします。

募集概要は次の通りです。詳しくは青森中央短期大学ウェブサイトに掲載している公募要項をご覧ください。多数の応募をお待ちしています。

青森中央短期大学将来ビジョン
情熱あふれるプロフェッショナルを輩出し、ともに地域と生きる大学

■募集内容：青森中央短期大学将来ビジョンをイメージしたロゴマーク（図）のデザイン

■応募資格：どなたでもご応募いただけます（個人、法人、グループ、いずれも可）

※ただし、18歳未満の方が応募される場合は、親権者の同意書が必要です。

■募集期間：2020年６月１日（月）～
2020年７月31日（金）必着

■応募方法：応募用紙に必要事項を記入の上、郵送、持参または電子メールで応募してください

■受賞
最優秀賞１件（賞金として10万円を贈呈）
優　秀　賞１件（賞金として３万円を贈呈）
佳　　作　最大２件（賞金として１万円を贈呈）

※最優秀賞受賞者は、青森中央短期大学ウェブサイトにて結果を掲載し、青森中央短期大学創立50周年記念式典において表彰する予定です。

■ご応募・お問合せ先
青森中央短期大学 法人本部 企画部
（mail：kikaku@chutan.ac.jp）まで

2019年度COC+シンポジウム開催

青森COC＋推進機構主催
「いま考える次の一歩 －若者の地域定着に向けて－」

2020年２月、COC+事業最終年度となった2019年度COC+シンポジウム「いま考える次の一歩　－若者の地域定着に向けて－」（青森COC+推進機構主催）が開催されました。

第一部では「地域に若者を残す連携の推進」と題した基調講演が行われ、第二部では平成27年度からこれまでのCOC+事業への取り組みについての説明と、事業に参加した学生からの報告が行われました。続くパネルディスカッションでは、若者の採用や地元定着率の向上、青森県のこれからについて議論され、５年にわたるCOC+事業を締めくくるシンポジウムとなりました。

2015年度から青森COC+推進機構の青森ブロック・リーダー校として活動してまいりました青森中央学院大学COC+事業推進事務局は、2019年度をもって終了となりました。たくさんの皆さまに事業推進へのご協力をいただき、誠にありがとうございました。

マスク・消毒用アルコール寄贈ありがとうございます

現在、本学では新型コロナウイルス感染症防止のため「新型コロナウイルス感染症防止対策」（学校法人青森田中学園新型コロナウイルス感染症対策本部 2020年２月20日発足）を策定し、マスク着用や手指の消毒、換気の徹底、健康観察等、万全を期して学業を継続しております。

このような状況の中、マスクや消毒用アルコールの入手困難な国内での事態を受けて、協定校である吉林外国語大学や東北師範大学人文学院（中国）、以前に留学生として本学に在籍していた方や在学生、卒業生等から、本学にマスクや消毒用アルコールの寄贈が数多く寄せられました。一同、心より感謝申し上げます。キャンパス内での感染予防・拡大防止対策を徹底するため、有効に活用させていただきます。

新型コロナウイルス感染症防止対策について

本学園では、日本全国での新型コロナウイルス感染症罹患者増加に伴い、４月22日から５月10日までを臨時休校とし、５月11日から授業再開となりました。再開に伴い、感染防止策に万全を期すため、濃厚接触を避けるための対策や授業環境の整備を徹底しました。

また、授業再開日から５月22日までの土日を除く２週間、本部棟正面玄関と７号館正面玄関の２か所において、学生や教職員、学外事業者等、入構するすべての方を対象に検温を行いました。

今後も皆さまの健康と安全の確保を第一に考え、感染拡大の状況の変化や政府・行政等の方針により新たな対応を行う可能性があります。大学ホームページで随時お知らせしますので、定期的にご確認ください。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済支援について

全学生に一律３万円の「修学支援金」を給付しました

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策などにより、生活に多大な影響が及んでいますが、本学ではこの影響による修学上さまざまな困難に直面している学生を支援することを目的に、５月、全学生一律３万円の「修学支援金」を給付しました。

また、経済的困難を理由に、修学を継続することが難しい学生に対して奨学金を上限10万円まで無利息で貸与する「学費・生活等支援奨学金の貸与」、授業料等を期日までに納入することが困難な学生に対して、分割、延長納入を認める「授業料等の分割･延長納入」の経済支援を実施しています。

■学費・生活等支援奨学金の貸与

目的：経済的困難を理由に修学を継続することが難しい学生

対象：大学院、大学（別科含む）、短大（専攻科含む）、専門学校生に在学する学生

※但し科目等履修生、聴講生は除く。

金額及び利息：１万円単位とし上限10万円で無利息

返済期間及び方法：在学中に一括または分割

提出書類：学校法人 青森田中学園 学費・生活等支援奨学金貸与申請書

■授業料等の分割・延長納入

目的：経済的困難を理由により、授業料等を所定の期日までに納入することが困難な学生

対象:大学院、大学（別科含む）、短大（専攻科含む）、専門学校生に在学する学生

延長期間：年間納付額を12月まで、年10回を限度に分割、延長を認めます。

提出書類：新型コロナウイルス感染拡大に伴う授業料等の分割・延長納付申請書

お問い合わせ：青森田中学園　事務局総務課
TEL：017－728－0131

※詳細、申請書については、本学のホームページよりダウンロードしてください。

「こぶしの花」掲載写真募集！

「こぶしの花」編集委員会では、青森田中学園報「こぶしの花」の表紙写真を募集しています。
緑豊かな学園内での、四季折々の風景を題材とした在学生の皆さんの作品をお待ちしています。

■応募期間：通年
■応募方法：応募先メールアドレスに、①件名「こぶしの花写真応募」　②本文「学部学科・学生記番号・氏名・電話番号」を記入し、写真データを添付して応募ください。
なお、応募作品は、青森田中学園在学生が撮影した未発表のものに限ります。掲載が決まりましたら、こちらから連絡いたします。
■応募先メールアドレス： kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp
※お問い合わせもこちらのアドレスまでお願いします。

携帯から応募の際は
コチラをご利用下さい

青森田中学園報「こぶしの花」第102号
発行日：2020. 6. 30
発　行：学校法人　青森田中学園
〒030-0132　青森市横内字神田12
ＴＥＬ：017-728-0131
ＦＡＸ：017-738-8333
https://www.aomoricgu.ac.jp
https://www.chutan.ac.jp

「こぶしの花」編集委員

編集長　加藤　澄
杉田由佳理　丸山　夏弥
外崎　秀香　木村　貴子
渡辺　琴美　坪谷　輝子
中田　尋美　岩葉　悦子
高橋　晴美　町田美智子